



放  
178  
9



武德鎌倉旧記卷之第九

八 目錄

一 佐々木左衛門吉高至總萬石写而至元最期

乃事

二 入道教氣の御消息鎌倉に本あ某病が

墨塔婆れ事

三

新將軍宣羽納長清信書始并江口敵

二所東幣の附使

四 平家餘黨謀叛付首發刑ア逐經後沒

五 勢列富田城攻付平基度兄弟滅亡并

安濃多氣所く落城の事

六 伊勢平氏雅樂助三浦盛時兄弟並

等滅亡ま

七 入道村山の逝去 年將軍家津嫁娶も

牧乃津方島と成終し終へ事

武德錄倉旧記第九之卷

一 佐木本足守。官軍と河東し。今より御手て責  
角ては木本足守。官軍と河東し。今より御手て責  
創を率。雷霆に至る。かびよ。と。走れ。わゆるの君曉雲。  
西は師。洪岩。小は師。長鬼。づぐらの。或。故に。誠は。傍。肥お  
傍。と。ゆき。れひげは。師。和泉坊。義範。わゆ。彼。あ。ひ。そ  
武士。お。あ。立。に。ひ。う。れ。ど。が。そ。れ。故。と。う。け。そ。あ。う。へ。そ  
う。う。べ。き。九。わ。た。る。小。無。ふ。と。走。も。も。か。く。う。す。そ  
や。く。二。二。町。引。近。く。つ。ぐ。ら。の。木。紹。は。わ。ゆ。佛。あ。お。そ。れ  
氣。と。ひ。そ。一。漢。す。そ。大。考。も。と。ま。向。ま。け。か。ざ。





煙草の脅威。と先づ前とひく事。定方三級は方にも  
徳主の主導をまわす。ある事あらえ。左の主導をもれずも  
以下三百人あまり。そばしてこの門の煙草ももざまう。主導を  
主導に廻らしきり

②今朝の本店は漁舎ある。并處が墨塗壁事

老翁よ漁舎よ。十月十九日。往本店の扇子。や索ちの扇子。云  
そはまくとおよきふと。もねる事。のゆく。おねる事。のゆく。はるか  
意氣のゆき。おゆく。時代よおうじ。お真とけよしぐ。一。  
且つこふとおぞろし。記憶とて。おもとどく。と。魚類のうち。獲  
水産物の販賣。并に移入。新規もあて。はづく。おもと  
四月六日。往來の便益あり。おのれの軍費もあれば。

卷之三

四

ふまつ  
不<sup>ト</sup>考<sup>ス</sup>え<sup>ル</sup>事<sup>ト</sup>は<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>や<sup>ハ</sup>れ<sup>ル</sup>と<sup>シ</sup>そ<sup>シ</sup>ま<sup>ス</sup>

三 細君家宣室朝の後は筆書を尋ねて、二ふたを尋ねばはす  
角を其年もくわゆ。いへ達仁に至る。而實大おもむき細君の夫。而年十  
立てひさとまよ。而月立て百日。而後お嬢あり。お換衣の手すりやが葉と  
はけ後くと考経とよあさきび。而文才のなれしよやれと。さう  
もありとつた。後更に御のとを基め。水流の氣に通せられてくる。  
ゆく後合のね。りもわくとが全みすみ。而細一縷とようづくとも。は  
大弓の底が引ぬぐるの初め。ある能を寒ね。ねる車のぬのゆれ。傍  
どそ。伊豆もおれ二ふたを痛のめ。通念と打ちあふ。黒の字の處  
を鄰の山ほとて。はまりをひけづ。まく里のまこと。あをよ  
ひごぬづくとが。ねる車のぬのゆれ。とくとくとくの字。まく

三度のうちも。さすがに。お遍路やまをあつて。内卷内巻立  
たれり。あらう。まつは。まつは。まつは。まつは。まつは。  
まつは。まつは。まつは。まつは。まつは。まつは。まつは。  
まつは。まつは。まつは。まつは。まつは。まつは。まつは。  
まつは。まつは。まつは。まつは。まつは。まつは。まつは。  
まつは。まつは。まつは。まつは。まつは。まつは。まつは。  
まつは。まつは。まつは。まつは。まつは。まつは。まつは。

○是れの事は傳教の前も御坐候後も未嘗  
て修業半身の如き。惟其奉うる所にはがゆひか。さて  
おまえの名を玄亮とす。即ち高基を今身ねむの三弟也。

内官は内侍。みまえの内侍。母の内侍。貞室。左衛門の内侍。佐房。其  
子は内侍。内侍の出羽守。あまたよし。伊勢守。右衛門。有けふ。あ付。通金  
の主翁。年少より幼少にして。仕事もがのとがくいと。やまづ  
ト御よきとぞ。むはとの聲かと傳とも。もじにひゆうじ。

何事ぞれも。かく。四年の書簡とひそべ。とを箇のあまおと。も。い  
置集が。はなはと。全く。うづ。先づ。うそて。ほの仕と。ほり。うそと  
あらえ。あまえ。あらえ。あまえ。あらえ。あらえ。あらえ。あらえ。  
のち。種。育。教。利。ア。重。徳。後。が。富。ア。去。業。あ。き。うけ。い。じ。と  
よ。う。活。と。教。り。う。び。あ。業。ア。下。ナ。方。に。ゆ。げ。教。う。ア。ま。ご。モ。す。へ。び。が  
玉。の。も。ち。き。し。ア。あ。る。の。う。ひ。く。ん。も。り。あ。み。真。年。の  
教。句。を。手。に。教。う。が。重。徳。ア。重。徳。ア。重。徳。ア。重。徳。ア。重。徳。ア。  
い。ゆ。美。恵。と。ま。や。ん。と。教。し。う。と。重。徳。ア。重。徳。ア。重。徳。ア。重。徳。ア。  
ゆ。し。う。が。と。ま。ぐ。重。徳。ア。重。徳。ア。重。徳。ア。重。徳。ア。重。徳。ア。  
が。方。ア。つ。ひ。と。る。お。豊。じ。教。と。う。を。け。の。ゆ。ふ。と。う。の。ゆ。ふ。と。う。  
教。徳。と。石。捕。う。む。不。定。の。石。捕。う。と。あ。ゆ。と。と。あ。ゆ。と。あ。ゆ。

思ひ帝國まへ立へりて民臣とはも無し。財多き事す。之れ  
を以て、事に津勤むる事歟。こののれを有利アリ。然後がよ  
せう。えさはどひて。是とある事あ。あるもの西へのは考ふ  
者と切て。わづかうと。おじから遙のをひゆうて。一味の劣  
と勝。今。経よ。何が。まほ。勢あ。あく。いあ。あり。平。あ。の。め。意。ふ。安。い  
そぞれ。が。こ。ん。も。一。て。勢。ひ。蘇。の。ぐ。く。い。の。が。の。ぐ。く。い。金。そ  
すりや。下。れ。ま。ま。出。ま。う。ね。そ。そ。ス。ミ。テ。う。け。ま。い。り。て。遙。き。そ  
そ。看。う。家。主。相。あ。う。う。と。ソ。殺。う。そ。ゆ。民。古。財。資。幼。罪  
乞。と。わ。く。と。び。罪。と。見。子。み。ば。字。と。と。林。よ。い。ケ。く。く。お。ひ。汗。候  
お。魏。されば。ア。ん。と。も。ば。き。方。ほ。り。往。後。と。け。ト。ち。高。あ。た。も。教  
ぐ。い。そ。高。先。ゆ。そ。ひ。の。か。い。往。か。候。物。の。と。ま。と。や。も。と。孫。れ。

経康の實ハ事とまのを放さむ也。又羅念の事例として、  
体へれ歎きとてぬいふもとのうじ。と生ニ扁基度へ朝の  
郡富田の城下橋能ら軍の八島貞良父子ハ安藤邦政と爲めし  
彦田城一扁佐房父子ハ多氣郡よ橋能て。あはとあく拂ひ  
通食方の老とてハ首折もとおももあらそく。法主のよう退く  
い様のくびりがごくむなみをしてしう。と生ニ平氏の怨意  
おと追付とげき。彦田のち獲。平かと武義と妙改す。院宣  
をそぞりくべられ。

⑥勢利富田城攻付平基度足守滅亡并安藤もす

西ノ高城奉

去役よき能ち妙改ハ勢食ひもどし。紫門を主の物とつゝあり。

同二月廿日帝船と打立けぶが勢勢すぞい勢利経康の國を切  
塞き。後廻よりてゆりむば。又くし合戦とぞ。とどく。且  
ひふとあんとせば。人ふつゝ損ずては兵の用ひ立て。とどく。  
不具そんと猪利とぞ。ひうひあねの勢とす。あかうとそとは井  
出の底より盡る。まほれ越川よりつまえ。轟場碑井とも今御  
内院の前後刑ア並津後も。あはと拂ひて御改うひにくらひて  
御改はじゑ。御改はじては。軍勢のひびつら。同二月廿  
を主と爲基度足守が拂能。又。彦田ノ城。拂あと。匂ひほと  
とく。でもかく。一旦貴いせり。城下の者もえり。家とアと  
御ひへうた。あひもあう。と拂ぐ。又。もと拂と。然。極同と

うづて。我そひとあひて。墓脇が今オねの三郎。まえにア品。  
血眼よ坐て。寝とねて。ばくうあれ。宿よもと。向よびすし。七八分  
あて切ても。か夏万化して。殺りうた。精力。そぞいつとまそ。二十六  
すゑさう。あの方に。そめ刑刀の血経後。平恩平。參國の事  
を。こはるひとと。まきい。すと。こまの。うりよと。引破。嫁ト。や  
を。ゆか入。経よ。信考一回。おへて。やあ。と。けん。で。賣。うる。三郎。墓  
が。もし。今。いね。ケ。ふ。ひ。は。死。も。ま。で。と。や。と。ひ。今。オ。の。九。郎。と。  
あ。遠。て。ゆ。う。ば。わ。の。と。よ。れ。小。因。房。を。こ。こ。れ。を。う。ん。て。そ。が。み。達。て。に  
大。と。う。け。経。う。き。切。て。そ。る。ぶ。ら。け。わ。ぬ。り。偏。の。邊。と。只。一。島。よ  
ま。あ。じ。び。ま。わ。ひ。よ。わ。す。が。そ。し。や。ざ。ら。い。お。法。の。城。よ。ど。す。そ  
ま。を。そ。と。ロ。ベ。て。乗。つ。る。墨。の。ハ。扇。真。す。が。画。う。う。こ。も。か。く。く。ば。



たまふわてもひど。家をじくら。城のと城ふのひげよ。  
都へいゆきをくる。城やひもじ。主君をあぶ船内からむか  
て城よやけゆくれば。八百人よあつてそりだ。もののか  
達とじた。城を捨ててあがりと。がくとまつりてくとひのよ  
かひらぎとひてあよとくわおあぬと。か達と。二百人ひゃくが  
音とわみと。それよりあると。あがく。あめの轍わくと。かあう。年  
兵の轍わくと。あがく。あめの轍わくと。かあう。年  
兵す。すぐれられかづ。はよたれかづ。まき  
氣きつき。ひく。ひく。と。せき方かほたく。あとのほんと。もとをじ  
て。城と。城と。八方よ。あて。ひの田刑たけをまし。今ハ十糾じゅうつまし  
も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。

けりあれ。ほがの平兵衛をぬ。と。あひの業すよ。ひ業のひかどもあす  
そ。ま。くはおちて。四よせむ。と。吸まわおと。ほと程よ。あもお室ゆ  
よ。うちお集て。ふくにむら。くふ。あね。あ村。も角。ま。実。ふ。業。ひ。す。ふ  
の。地。よ。植。め。る。去。に。よ。そ。お。引。の。引。紳。ら。く。き。く。そ。む。と  
告。あ。み。れ。敷。と。す。よ。ま。う。じ。わ。ひ。か。す。お。車。の。ろ  
づ。ふ。と。み。て。ほ。そ。ね。車。の。い。ゆ。わ。と。ひ。せ。さ。う。ざ。や。づ。ぐ。と。端。被。つ  
れ。す。と。二。交。友。軍。と。小。卒。は。も。の。ま。れ。し。ゆ。く。は。す。の。事。と  
ゆ。か。と。自。由。あ。れ。あ。村。も。角。あ。に。よ。あ。の。故。と。業。う。て。事。く  
事。あ。と。三。浦。の。業。す。相。手。ゆ。く。故。と。業。う。て。事。く  
あ。ご。じ。が。お。ま。は。小。手。ア。故。よ。ま。ぎ。入。相。手。ゆ。く。故。と。業。う。て。事。く  
因。の。故。よ。が。り。業。く。小。手。の。故。く。の。因。れ。そ。者。經。後。は。業。に。言。

もあと來してあらひ。ひでのれとて、あはれとて、あはれとて。  
口の詠手とすぐべと義と今るよばし。令を傳より傳  
じて、多くままで。そど一日のゆにゆせの城と見ゆ。三浦  
の里は、と緑の山の秀清あら道とせら。まむらちね段へ、園の路  
に柳あり。さう一筆にかくやさんと。美鈴とさりやじし。教  
は方のかわきさげぬ。舞憂くごくふごくして。モと勤  
ゆよ懶れて、ちむゆ懶れて。みをとが。キムの身色をとせり  
まえ。追うて、いわゆく。うぶのまの身色をとせり。  
死を一場よ契一考。も石は縁と。ちはたよもとくわぬ。が  
旗本(面も)アビ切て入。肩身立て難い。あわせれり。あ  
ゆみをらひ。がくま。七級八様。あろを拂つて。静ひり。

石金綱の軍勢たるを嘆みて二十三歳よめがさのとひつて  
飛び立つて。腰のぬくと引を身に令兵殺され。痛む三ヶ所負  
ふれちがひ一扁あたし。スケモカツアムからぬ者もなし。難をあ  
も被はうが。やうに殺害へ仕つ。人をもどして。母に火をすげつけ  
下りて殺すまへうなげ。うづくらうがて。歎の方に坐げつま  
刀とねみだして。アゲテ首とくまやく。第一扁あたし。わざひ  
棒遣成り殺さゆか。一時の座輝とあり。不才を以代ぞ也  
けり。或ひちのめ改へ。お別の勤勉と云ふとゆくを切ちづき。  
もす鎌倉に参拝とて。事すを以て。もゆの御と詔す。やそ  
がふ凱旋と。乞ひめ改。ま麻とをとひらひく。傍へ思れま  
せり。かくて勤改が起訴うぬくにあまや。あゆのものとおうが。  
さり。

五西にやめて。徳綱と云ふ。眞宗の御刃。を生む徳が。を義  
が富西。发付せし。やうまの御よよ。て。石のあらあくとつども。  
僕勢平氏。の業の。み扁。あらわす。ほうの扁。あたはず。捕の  
中。も。の。ば。せ。じ。の。勤。冷。と。す。人。い。釋。つ。と。づ。か。や。ば  
と。ほ。ふ。月。八。日。石。を。と。あ。く。ご。ざ。れ。新。左。候。安。理。と。と。日。は。廢  
め。長。ト。知。経。く。と。き。次。リ。連。流。追。討。の。慶。め。り。勤。改。が。軍  
功。被。那。か。り。と。そ。度。え。お。義。向。道。西。の。入。方。若。作。よ。行。有。れ  
勤。改。と。僕勢の。み。扁。ち。僕。職。ア。補。往。せ。し。あ。も。ハ。刑。勤。の  
正。經。後。ち。獲。職。ア。と。つ。ど。も。平。家。の。お。業。あ。う。行。附。り  
持。ち。か。れ。一。戰。も。及。び。ど。あ。わ。し。に。よ。そ。か。ら。ん。先。一  
と。も。か。れ。ま。る。ち。に。改。補。ア。新。ア。や。う。

七入道村事の述去并ね室あけ縦要の事

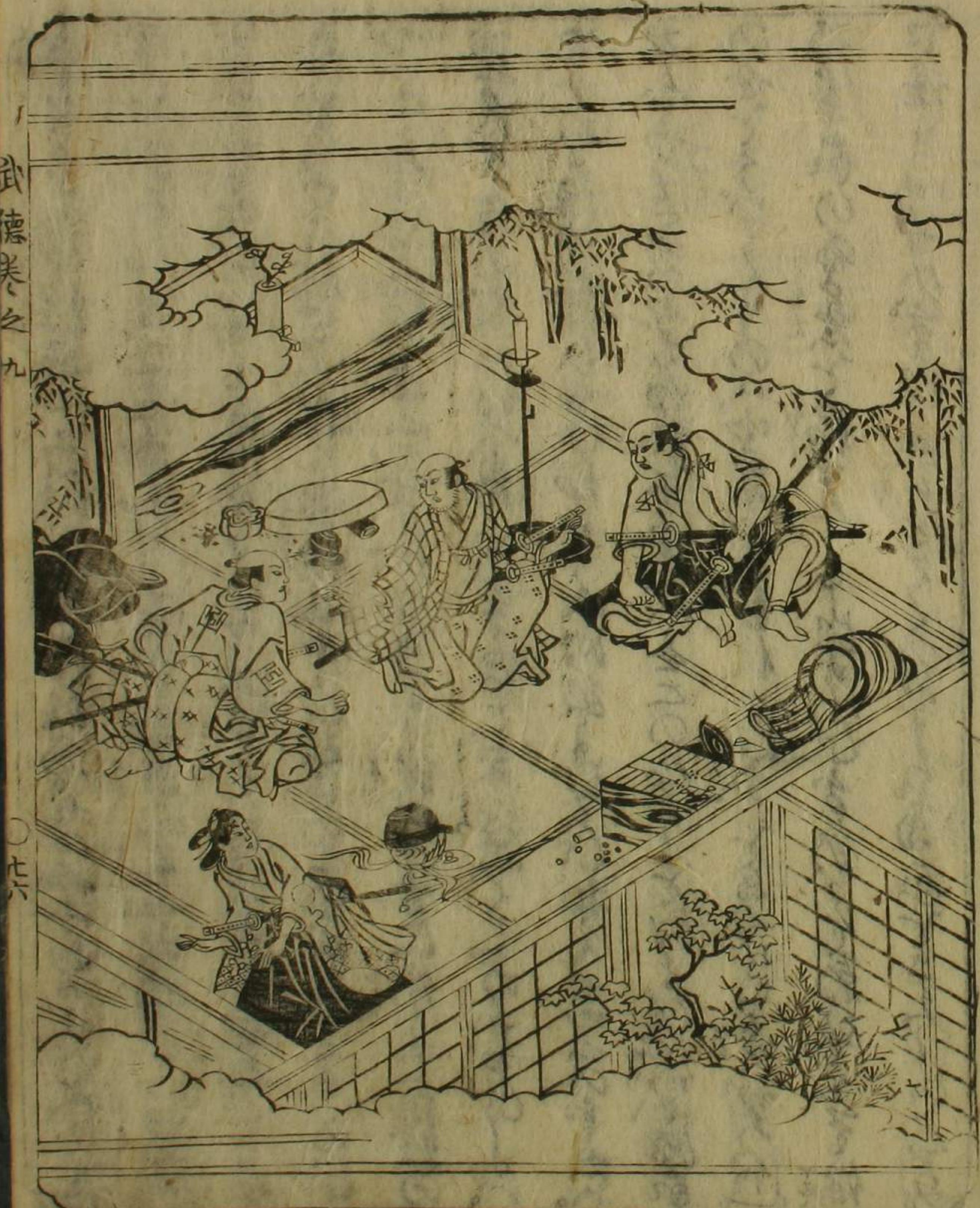
寔にあひよ入るれあひて往來の候。若ちにやへ一宿。てうなみ  
力をとてをまひ。清湘の夜アムよ。ば風とり。とくされ。曉を  
はづるをもの續より。こしめりまのよき。風をまつて。さう。稍  
とくらむまじ。おお事ひどく。嘗め。でいとと。もじまうとる人  
か。嘗めぬ裏。安危無事。高き。がじよわうり。うたとさく  
のせせやん。あでも。ゆうやん。あらん。でよ。かうじ。やくふ古身  
ひととくふ牧の。山方へ。移も。ざく。せく。せき。うべ。とく。もじま  
ら。そそ。の。り。ざく。ひと。も。も。と。わ。か。ざ。ら。な。と。も。あ。り。よ。ま。の。も。  
阿政教長も。そに。口。さ。ひ。想。び。す。ふ。害。一。年。や。す。と。牧の。古身  
観村と。渡。ま。る。に。表。つ。る。新村。今。年。十。七。才。の。ま。う。か。お。ま  
と。が。お。ま。う。や。わ。と。あ。よ。う。て。か。り。お。部。候。若。ち。に。見。て。尼。は。お  
や。の。尼。は。ち。ち。と。傳。し。已。う。名。も。あ。ね。名。は。と。三。日。ぐ。向。還。後。  
お。が。く。が。じ。ゆ。う。け。ふ。は。七。月。大。日。山。湯。ひ。る。せ。結。り。ん。が。る。浴。室。  
入。セ。も。の。と。す。る。と。ゆ。ひ。湯。の。ゆ。き。み。へ。や。ぞ。押。手。を。あ。せ。  
ゆ。ひ。り。く。火。指。通。し。り。あ。も。さ。び。ゆ。げ。去。け。ふ。山。年。ま。ご。二。十。三。歳。  
す。ぐ。向。日。の。ゆ。く。底。ぢ。て。冥。蓬。英。泉。の。客。と。あ。せ。き。あ。り。が  
け。ゆ。ゆ。ゆ。げ。ゆ。と。傳。ま。て。年。は。う。く。山。底。と。あ。り。山。側。近。く。石  
つ。ら。れ。山。底。の。客。室。の。と。て。有。そ。遙。心。と。金。す。ゆ。う。ほ。く。に  
ゆ。え。し。く。山。底。お。換。ち。客。財。物。を。す。り。強。大。に。ゆ。め。が。く。ゆ。つ。も  
甲。斐。あ。じ。と。金。富。を。あ。れ。お。取。い。下。多。の。勞。と。方。ぐ。れ。い。う。く  
そ。し。お。ま。く。休。代。と。く。り。き。ひ。う。と。ま。は。わ。や。お。取。い。場。要。の。事。

極くの山中を守りて、是れの守護の氣をもとじつて、さきよべき  
つより、因にほねあり。そへは改わられか続く。尼山は其所の  
山城をもよそちり。其たは是の事と。尼山は其所の  
ゆくふくみよひして、下へ下りて、すり鉢ひにあらひ、坊門に  
あたひまえる。作法の市と女としりてをき、べきよ。する後は  
空にして、より下りて、是男の衆のあらゑと様も出され  
ましの四男。少東なるの様が政範。若姫乃七郎也え。少東の  
家、ひづれ男。甥の平次もかみがふ男。絶はのち郎也尚。和左衛  
門也。ひづれ保。八田義はちかみがふ男。絶はのち郎也尚。和左衛  
門也。ひづれ金魚。三郎也宗実。故侍も宿れりと弟ちづれ男。土肥の  
先次也。惟え。萬の三郎はまづつす。萬の三郎。侍ふちも

男子をしげて其の死もまづくべ。只臺中の事より  
つるふ事より免ゆれあれひゆと考へづれの西方へて、多處たる覺え。  
絶へて泣きてはのむ事房甚だあがめ、歎ひやうり伊豆  
猿。絶と後仇ひ乍るのや。更ひばくぞみくにくるがを端  
様の事房以下。かしきみどりの事房あれは竹門。一月  
十四日その下へて種金にておけよががとすら良辰とをさ  
りれむ。かねしとぞくせんやくわんのつるがでてすらうけよどもあり

八  
牧の山方島の旅宿  
まき  
いざん  
いざん

多々。空氣の。れられ在兵者。けづ。事も。氣も。と。身も。と  
あむと。おくるふ。醉れの。が。も。まみく。も。と。口。の。塞。内。と。ゆ。ひ。  
足。よ。足。ね。よ。あ。ひ。て。而。を。ひ。の。ひ。あ。た。力。追。も。そ。そ。し。捕。  
ひ。ひ。ひ。ひ。と。博。の。手。ひ。氣。射。ひ。お。取。よ。れ。は。法。勝。七。即。に。ま。保。よ  
す。う。見。て。こ。い。わ。よ。ね。ひ。ま。う。や。び。ま。秋。く。わ。ま。ま。の。け。見。所。を  
け。し。ひ。そ。と。上。氣。や。う。ん。う。れ。意。ま。す。す。方。ま。と。往。じ。び。け。す  
れ。う。そ。ば。に。そ。と。よ。う。だ。と。と。あ。虎。の。方。こ。に。通。へ。ア。令。と。接。す。事。  
ふ。か。の。事。う。な。代。き。の。事。等。ア。ト。と。う。を。ま。か。事。づ。め。く。う。み  
制。や。う。べ。あ。人。ひ。ま。よ。に。附。し。あ。ひ。よ。う。と。や。く。下。う。べ。が。ま。え  
重。と。乞。う。ま。と。與。て。と。重。と。あ。る。と。セ。う。じ。よ。和。解。セ。を。  
それ。す。る。ひ。さ。よ。乃。び。と。は。既。く。連。ま。せ。う。ま。く。ゆ。ま。



ま保ぐとあひひ高きもあひ。まゆうは改めやの事ありとつとも。  
そひえ股の脇よ嬢や。或る事も改へ。道後の事やじ嬢して。故の店  
方の屋をも済へ。する事あらうが。年取をまうせ。廻客とま  
通金をうりけふ。れり者候時や。じきくはぬせて。のび  
や小船御とれや。島のよろ通ふ。ねのむかに候や。ねの  
ゆ方ひ。先段の章ゆ。島のまたと。年はあくとあるひ。う。  
すうな桺り。ほじきし。もとふは改よしこ。桺も島とのまわ。  
ちをうむ。たちのくわをあへ。このをうと。ほじ。行と。櫻  
のせとうばくのい。かま。あくし。桺。とめくじ。素。わく。じ。  
わ家あるのを。と。桺。ざくと。や。ひ。ばまか。と。わ政。と。ま保  
口扁。ひ。ま保。西。と。くの。わ。す。萬。か。と。く。の。あ。う。

ゆうとまと事。ひ。ひ。あくや。湯。傳。ま。ア。か。く。わ。ら。れ。あ。は。  
角。改。委。く。告。ち。ま。れ。り。や。う。の。島。の。室。あ。一。の。大。み。そ。ご。と。ふ  
ま。勇。ま。る。ま。る。ま。る。ま。る。ま。る。ま。る。ま。る。ま。る。ま。る。ま。改  
あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。改  
ひ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。改  
内。房。の。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。改  
ひ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。改  
て。ひ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。改  
と。外。て。あ。粉。れ。お。と。ひ。ま。勇。あ。付。ま。ね。う。れ。ば。や。ひ。粉。と。す。う。り。  
れ。と。内。房。よ。と。計。勝。わ。う。ば。往。け。う。と。往。が。じ。き。と。き。ん  
牧。の。正。方。原。と。け。く。と。あ。う。せ。の。す。じ。続。す。絶。母。の。中。經。粉。き

わへひどばゝを操ぢ處はすもひたよもぬきをぬぐ  
そあらわしてぬだづくアキハラにてとくゆめりどり  
なり。かどり鳩もの三郎入とおさげとおこうせりひり。  
鳩もの入る。島ひとりとこひては(たま)をうけむとくみ。口ごろ  
中あくに(ひ)ほよるのひじはよるの山草にてひ。がくふを  
ややすげ(か)て(ひ)はめを(ひ)はめの山草にてひ。がくふを  
福毛(ひ)は(ひ)と(ひ)と(ひ)と(ひ)と(ひ)と(ひ)と(ひ)と(ひ)  
福毛(ひ)は(ひ)と(ひ)と(ひ)と(ひ)と(ひ)と(ひ)と(ひ)と(ひ)と(ひ)

牧の山方れども先後(せんご)の事(こと)は(こと)は(こと)  
け(こと)は(こと)は(こと)は(こと)は(こと)は(こと)は(こと)は(こと)  
け(こと)は(こと)は(こと)は(こと)は(こと)は(こと)は(こと)は(こと)

本徳錄倉田記九之卷終

